



HANDA CUP 第52回全日本女子プロボウリング選手権

12月17～19日／東大和グランドボウル

小林よしみ 3人抜きで全日本の頂点へ デビュー11年目涙の初タイトル

▶1月7日が誕生日の小林にとって、20代最後の試合で初タイトルを獲得



出場資格を有する72名が出場、予選はミディアム、ショート、ロングの3種類のオイルパターンを各8G、計24Gの上位24名を準決勝に選出したが、小久保実希が快調なペースで

5618を打って、2位の姫路麗に189ピン差をつけていた。

ミディアムパターンで行われた準決勝(9G)は、実力者たちの追い上げに徐々に貯金を減らした小久保が、通算32G目についてトップを明け渡した。小久保を27ピン逆転する7408でトップシードを獲得したのは松永裕美。3位に姫路、そして大激戦だった4番目の座をめぐる争いは、最終Gを前に圏外と思われた小林が267を叩いて滑り込んだが、それがドラマの始まりだった。一方、今年3勝を挙げていた坂本かやは、11ピン差で次点の5位にとどまった。

4位決定戦

姫路と小林の対戦は、6フレまでに互いに3つのオープンを作る意外な展開となった。7フレから初のダブルでリードを奪った姫路だが、「レーンがわ



▲夫の小林哲也(48期)から花束を受け取る



◀今季2度目のトップシードも生かせず、16勝で足踏みみの松永。「永久シード(20勝)が遠いです」

かっていなくて、どこに行くかわからない恐怖があった」と、決めきれない。9フレをストライクの小林は、10フレ1投目「途中でボールを替えたけど、これじゃないと思って最初のボールに」戻して渾身のダブル。小林の2投目は⑧⑩スプリットでヒヤリとしたが、1本カバーで168:167と1ピン差で制して、姫路の連勝は3でストップした。

ボウリング界もコロナ禍に揺れた1年だったが、その2020年プロボウリングを締めくくる本大会は、準決勝の最終Gで267を打って決勝に滑り込んだ小林よしみ(43期・ラウンドワン/STEEL SPORTS)が、快進撃で頂点まで上り詰め、デビュー11年目で悲願の初タイトルを手にした。(主催:(公社)日本プロボウリング協会/一般社団法人国際スポーツ振興協会)

3位決定戦

1フレ、小久保が③⑥をカバーミスでオープンにしたのに対し、④⑤⑦スプリットをナイスカバーで切り抜けた小林は、4フレのピンアクションによるラッキーなストライクをフォースへつなげてリードを広げる。右レーンへのアジャストに苦しんでいた小久保は7フレから初のダブルを持ってくるが、9フレは④⑥と割れて、小林が216:185で優勝決定戦に進んだ。

優勝決定戦

ともにスペアスタートのあと、小林が2フレ、ブルックリンのストライクをターキーへつなげれば、松永も3フレからのターキーで追走するが、6フレ②④⑧を手痛いカバーミス。9フレも⑥⑦のスプリットでオープンの松永を、ノーミスの小林



▲予選はぶっちぎりも3位にとどまった小久保。「3種類のオイルパターンの予選を1位通過は自信になります」

が216:197で退けて(トップシードの松永が敗れたために)再優勝決定戦に持ち込んだ。

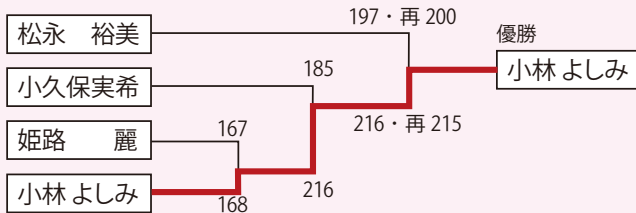
再優勝決定戦

1フレ、小林がジャストポケットのストライクに対し、優勝決定戦の10フレにボールを替えてパンチアウトの松永だったが、厚めで⑥⑦⑩と割れてオープンのスタート。小林が4フレまでフォースと伸ばすと、松永も2フレからターキー。しかし「レーンの変化が早くて対処できなかった」と松永が振り返ったように、後半はともに苦しい投球。結局序盤のリードを守り切った小林が215:200で松永を退け、デビューから11年目で悲願の初優勝を、全日本のビッグタイトルで飾った。



◀記録づくめの2020を4連勝で締めくくると思われた姫路だが、レーンがまったく分からなかった

●決勝ステップラダー



●再優勝決定戦

松永 裕美	⑦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	9	39	68	88	105	114	132	152	180	200	
小林 よしみ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	30	60	89	109	129	148	157	177	197	215	

●優勝決定戦

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
小林 よしみ	8		79		99		157			216
	20	50	79	99	117	137	157	177	197	

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
松永 裕美	9		69		115				167	
	19	39	69	96	115	124	141	159	167	197

優勝・小林よしみのコメント

予選は最初ミディアムが、ラインが見えなくて我慢の投球だった。最終日の準決勝もミディアムということで不安があったけど、ちょっと外に出ていっても戻ってきたので、予選より少し投げやすかった。最終Gを前に4位の大嶋さんと60ピンぐらいの差があったので、ひとつでも順位を上げようという気持ちだったけど、思いがけず決勝

に残れて、このラッキーを絶対に生かしたいと思った。姫路さんとの4位決定戦がいちばん緊張した。ボールが思ったところに行かないのは緊張のせいか、レーンの変化が原因かわからなかった。3位決定戦の前に隣のレーンで投げてチェックしたけど、投げ方自体は悪くなかった。左レーンの方が難しく感じていたけど、優勝決定戦の途中から、自分には投げやす

く変化してくれた。再決定戦の10フレ⑥⑩が残って嫌だったけど、松永さんのストライクが切れて優勝が決まり、緊張から解き放たれて、夢を見ているような感覚だった。いつか優勝して姉(あゆみ・44期)から花束を受け取りたいと思っていた。今日は会場に姉が残っていないくて実現しなかったけど、次は姉と優勝決定戦で戦うのが夢です。(優勝ボール: STORMストロング・バイト)